



パリ五輪に向けて全力で戦いたい

篠谷 菜留さん(写真左)

8月に東京で開催された世界バドミントン選手権大会の混合ダブルスに出場した市出身のバドミントン選手・篠谷菜留さん。前回大会の銅メダリストとして今大会を迎えた篠谷さんは「過信することなく、挑戦者の気持ちで忘れずに戦いたい」と意気込んだ通り、1・2回戦を堂々のプレーで勝ち進みましたが、3回戦で惜しくも敗退。2大会連続のメダルには届きませんでした。「序盤から動きが硬くなってしまう、良いリズムがつかれなかった」と振り返り、「流れが悪いときこそ気持ちを切り替えて、どのような戦い方をしていくかペアである山下恭平選手と話し合って改善できた」と今後の課題を見いだします。

北山小2年生の頃、知り合いに誘われてバドミントンを始めた篠谷さん。始めてから1年で頭角を現し、小学3年生で東海大会出場、4年生で全国大会準優勝、5年生で全国制覇を果たします。中学では、はりーあつぷジュニアに所属し、レベルの高いメニューをこなしていく中で、さらに技術を磨いた篠谷さんは「もっと強くなりたい」と親元を離れ、名門の青森山田高等学校へと進学します。

しかし、そこで待ち受けていたの

は厳しい寮生活。「高校3年間ほどきついつと思った時期はない」と即答するほどで、寮を飛び出して泣きながら親に電話した日もあると打ち明けます。それでも必死に耐え、高校3年生で迎えたインターハイでは、ダブルスと団体で優勝し、全国の頂点に輝きます。「もっとバドミントンに打ち込みたい」と卒業後は、実業団選手としての道へ進んだ篠谷さんは、日本代表として国内外で活躍し、数々の輝かしい成績を収めます。

「バドミントンを続けてきたからこそ、出会えた仲間がたくさいる」と笑顔を見せる篠谷さんは、バドミントンの魅力について「種目によって戦い方が全然違うし、スパーショットが急に決まることであって、目が離せないところ」と話します。今後については「来年からパリ五輪への出場権を懸けた戦いが始まるので、後悔なく自分の力を出し切りたい」と目を輝かせます。自分にとってはラストチャンスと覚悟を決める篠谷さん。夢の舞台に向け、全力でシャトルを追いついていきます。



▲チームメイトとのオフショット(写真奥右)

cover

8月28日、3年ぶりに大府東浦花火大会が開催されました。花火を一目見たいと、8千人が会場に駆け付け、キラキラ輝く美しい花火に酔いしれました。市公式Instagramでは、当日の花火の様子を投稿しているので、ぜひご覧ください。

